



〈「なすの古墳を探検しよう!」の様子〉

(国指定史跡 下侍塚古墳)

## 第13期まほろん森の塾

「まほろん森の塾」は、小学校4年生～中学生を対象に、「昔の暮らし・技術を体験することによって“生きる力”を身につける」ことを目的とした通年型の体験学習の一つです。第13期の今年度の塾生は、小学校4～6年生の8名で、年間6回にわたり活動しています。

第3回(7/13)には、「なすの古墳を探検しよう!」と題し、栃木県大田原市の「なす風土記の丘湯津上資料館」へ出かけました。バスを貸切った「館外体験」は、森の塾初の試みです。まほろんから車で約1時間の所にある風土記の丘地区内には、多くの古墳があり、今にその姿を伝えています。前回(6/22)、「古墳」について事前に学習した塾生たちは、この探検をとっても楽しみにしていました。

実際に古墳を目にし、上った感想は? 「イメージと違う!」「もっと大きいと思ってた!」「古墳って一つだけポツンとあるんじゃないかと、周りにもいくつかあるんだね!」など様々。まさに、「百聞は一見にしかず」を、肌で感じた様子の塾生たちでした。また資料館の見学では、積極的に学芸員の方に質問をしたり、「上侍塚古墳」や「下侍塚古墳」の鏡などの副葬品をスケッチしたりするなど、生き生きと活動する姿が見られました。

第4回(9/21)には、この活動の成果をまとめ、保護者の方に向けて発表会を行いました。古墳についてだけでなく、この「館外体験」でどんなことを学び、感じる事ができたのかなど、感想を交えたしっかりとした発表でした。塾生たちの成長を、少し垣間見たような気がします。

## 夏まつりの様子

7月28日(日)に「まほろん夏まつり」を開催しました。晴天の午前中から一転、お昼過ぎには突然の大雨となりましたが、300人を超えるお客様にご来館いただきました。

夏まつりのメインイベント「古代三種競技(まほろんカップ)」は、雨天のためにやり投げを除く古代二種競技(弓矢・火おこし)で開催しました。優勝者には、栄光

の“まほろんカップ”と表彰状・記念品が贈呈されました。

体験広場では、石斧で丸木を伐採する「木こり体験」、夕



＜弓矢体験＞

デアイの生葉で染色を行う「古代のすり染め体験」や、昔懐かしのかき氷機でつくる「かき氷づくり体験」など、多彩な体験を多くの来館者に楽しんでいただきました。

午前と午後に行われた「勾玉づくりプレゼント抽選会」では、当選したお客様は早速、勾玉づくり体験を行って、世界に一つだけの勾玉を製作していました。

また、今年も「那須甲子青少年自然の家」・「磐梯青少年交流の家」にも参加していただき、まほろん夏まつりをさらに盛り上げていただきました。



＜まほろんカップ表彰者＞

## イベント「まほろんを描こう」

9月14日(土)から9月16日(月)までの3日間、イベント「まほろんを描こう」を開催しました。このイベントは、まほろんの館内や野外の展示などから自由に題材を選び、絵を描くものです。

参加者の描いた作品は、館内に展示し、来館された方に印象に残った作品3点を選んで投票していただきます。その中から、特に人気の高かった優秀作品を、後日、表彰する予定です。

イベントの2日目と3日目はあいにくの雨天となりましたが、3日間で30名を超える方に、芸術の

秋を感じながら、力作を描いていただきました。

作品は、9月20日(金)から10月14日(月)まで、まほろん館内のプロムナードギャラリーで展示する予定です。

是非、来館の際に力作をご覧になって、投票にもご参加いただきたいと思います。



＜「まほろんを描こう」の様子＞

## 研修だより

### 教職員等発掘体験研修

8月6日(火)から8月8日(木)の3日間、教職員等発掘体験研修を実施しました。この研修は、まほろん文化財研修のひとつで、教職員や市町村教育委員会職員などを対象として行う研修です。実際に県内の遺跡の発掘調査を体験し、それによって得た経験を教育現場などで役立てていただくために行われる研修です。

今年度は、二本松市のトロミ遺跡の発掘調査現場を会場に、2日間の発掘体験を行い、3日目は二本松城や二本松市歴史資料館を見学しました。トロミ遺跡は、阿武隈川の堤防建設に伴って発掘調査が一昨年から行われており、縄文時代から鎌倉時代の遺構・遺物が多数発見されています。

研修には、県内の小・中・高校及び特別支援教育

学校の教員等12名が参加しました。

1日目は、あいにくの雨のため、野外での作業体験ができなかったため、現場事務所で、出土した土器や石器などの遺物を洗浄しました。2日目は晴天となり、2グループに分かれ、竪穴住居跡の検出作業と縄文時代の土層の掘り込み作業を体験しました。縄文時代の土層の掘り込み作業では、出土する土器や石器を壊さないように、注意深く調査しました。3日目は、二本松城の箕輪門から本丸まで登り、山城の構造を観察したあと、二本松市歴史資料館では展示品を見学しながら二本松市の歴史を学習しました。



＜遺物水洗研修の様子＞

## 秋のまほろん

### イベント「まほろん秋まつり」

開催日：平成 25 年 11 月 4 日（月）

一昨年に開催し、好評を博した「まほろん秋まつり」を開催します。

当日は、定番の体験学習メニュー（火おこし・勾玉づくり）に加え、秋ならではの特別メニューなどの“まほろん”らしさが溢れる企画をご用意して、皆様さまのご来館をお待ちしております。

秋の行楽シーズンは、ぜひ紅葉に染まるまほろんでお過ごしください。詳細は、ポスター・チラシ、当館ホームページにてお知らせいたします。



＜一昨年の「まほろん秋まつり」の様子＞

## 企画展示案内

### 収蔵資料展「ダムに沈んだ遺跡たちⅠ—三春ダム内の遺跡—」

会期：平成 25 年 10 月 12 日（土）～ 12 月 23 日（月）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

収蔵資料展は、まほろんに収蔵されている県内から出土した資料を紹介するものです。

「ダムに沈んだ遺跡たちⅠ—三春ダムの遺跡—」は、三春ダム建設に関連した発掘調査で出土した収蔵資料を紹介します。三春ダムは福島県中央部の三春町にあり、大滝根川中流域に位置します。



＜柴原 A 遺跡 敷石住居と集石＞

## 10 月～ 12 月の実技講座について

まほろんの実技講座は、「ものづくり」を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として行っています。

10 月の講座は、5 日（土）に「むかしの料理をつくろう」、19 日（土）に「古代の竹笛をつくろう」を実施します。「むかしの料理をつくろう」では、強飯やチーズ（蘇）など古代の料理を再現します。また、「古代の竹笛をつくろう」では、竹に穴を開けて竹笛を製作し、実際に音を出してみます。

11 月の講座は、9 日（土）に「土器づくり初級編Ⅱ」、23 日（土）に「ひょうたんから容器をつくろう」を実施します。「土器づくり初級編Ⅱ」では、縄文土器の製作を行います。12 月 14 日（土）には完成した土器の野焼きが行われます。また、「ひょうたんから容器をつくろう」では、乾燥させたひょうたんに色を塗り、栓を取り付けて完成させます。

12 月の講座は、7 日（土）に「古代の印章をつくろう」、21 日（土）に「家族で門松をつくろう」を実施します。「古代の印章をつくろう」では、石に彫刻して印章をつくります。また、「家族で門松をつくろう」では、室町時代から行われていた竹や松を使った正月飾りをつくります。

各詳細は、ホームページや館内チラシ等でお知らせします。皆さんふるってお申し込みください。

三春ダム関連の発掘調査では縄文・奈良・平安時代、中・近世などの遺構や遺物が多数発見されました。

今回の展示では、縄文時代中期後半～後期前半（今から 4,000～3,500 年前）の複式炉・敷石住居・配石など数多く発見された、石を使ってつくられた遺構に焦点を当て、大滝根川流域で自然と共に暮らした縄文人の姿を紹介します。

なお、11 月 9 日（土）には平田禎文氏（三春町歴



＜柴原 A 遺跡出土土偶＞

史民俗資料館）によるまほろん文化財講演会「三春町の文化財」を開催します。



＜春田遺跡複式炉＞

## 文化財研修・講演会のご案内

### 10～12月の文化財研修・講演会について

10～12月は、文化財研修3コース、館長講演会1回、文化財講演会3回を予定しています。

文化財研修では、10月26日(土)に、考古学と関連科学「出土資料の保存処理」を実施します。保存処理の役割とその方法が学べます。11月23日(土)は、考古学基礎講座Ⅱ「ふくしまの宝物(関和久官衙遺跡の瓦)」を実施します。古代白河郡の役所跡である関和久官衙遺跡出土の瓦から、陸奥国における律令国家の形成について学びます。12月14日(土)は、専門考古学講座Ⅲ「古墳時代の資料の見方」を

実施します。まほろん収蔵の古墳時代の土器の移り変わりや形態について学びます。

館長講演会は、『北日本の縄文文化について』をテーマに年5回開催されますが、その第4回を11月16日(土)に行います。

文化財講演会は、10月19日(土)に「中世陶器の窯について」(講師：藤沼邦彦氏)を開催します。県内で確認された中世の陶器窯を中心に講演します。11月9日(土)には「三春町の文化財」(講師：平田禎文氏)を開催します。12月21日(土)には「白河関と東山道」(講師：鈴木啓氏)を開催します。

詳細は、ホームページや館内設置のポスター・チラシ等でお知らせします。

## シリーズ収蔵品紹介 17

### 柴原A遺跡出土の土瓶形(注口)土器

この土瓶のような縄文土器は、昭和63年度の三春ダム関連遺跡発掘調査の柴原A遺跡で、ほぼ完全な形で発見されました。形や文様などの特徴から約3,500年前の縄文時代後期中葉につくられたものと推測されますが、土の中で数千年間も壊れなかったのは感動的です。

縄文土器のイメージは、表面に縄文が施され、その手触りはざらりと荒い。また、縄文土器は大きくて厚みがあり、野趣にあふれた大昔の器、といった姿を思い描かれるのではないのでしょうか。

しかし、この土瓶形(注口)土器は薄手で縄文が少なく、その表面は黒光りしています。よく見ると丸い胴のほぼ全面に一度縄文を施しており、部分的に残して縄文を磨り消していることが分かります。一工夫して土器の表面にススの吸着と石などの硬い物質を用いて研磨を行う



＜柴原A遺跡出土土瓶形土器＞

ことによって、黒色に光る滑らかな器面が出来上がります。

一概に縄文土器といっても多様で、縄文が全く施されない土器が流行する時期・地域もあります。また、土瓶形土器のように、現代の器とそっくりな形の縄文土器もあります。柴原A遺跡の土瓶形土器は、胴の両肩に耳のような穴があり、弦を架け渡していたようです。

土瓶と急須の違いは持ち手となる弦の有無ですが、土瓶が球形だと底に溜まったお茶なども、持ち手を親指方向へ傾けるだけで自然と注ぎ口方向に集まります。土瓶形土器は縄文時代、土瓶が普及するのは江戸時代以降ですが、時代を超えた器形の類似は液体に関連して機能を求めた結果でしょう。

では、土瓶形土器の用途は何でしょうか。酒や薬などを入れたという説があります。また「まつり」に使われたものとも言われています。

ところで、秋の味覚といえば松茸、松茸といえば土瓶蒸しも代表的な料理です。しかし、土瓶蒸しの可能性は低そうです。なぜなら、土瓶形土器に火がかけられた痕跡はほとんど確認されないからです。土瓶形土器の用途は謎ですが、愛嬌のある丸い形は人を引き付ける魅力があります。

(専門学芸員 香川慎一)

## まほろんからのお知らせ

### まほろんショップから

まほろんショップでは、新商品「まほろんオリジナルクリアファイル」(1枚200円)を販売しています。

来館の記念に是非お買い求めください。



## ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月3日)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。